



易者

竹村 亜希子



(易者という言葉には一定のイメージがある。が、うるんだひとみの、髪の長い一見タレント風のこのお嬢さんが易者?)
易者という言葉は古く感じでしょう。女占い師っていいでしょうか。昔からカンはあかっただけです。十二歳のとき、仙

師匠は“仙人”?!

人修業をしていた人に自宅で教えてもらったのが始まりです。本格的に仕事としてやり出して十年です。しばらく東京にいましたけれど、また名古屋に帰ってきて、最近事務所を開きました。

(CBCのスタッフが、この“美人占い師”の話聞き、さっそく出演交渉。易に“ひき受けていい”と、でたとかで、この十月からハガキによる占い

だれでもさまざまな形で悩みを持っていきますね。占いで見てほしいと思ってもなかなか行動にはふみ切れません。その点ラジオだったら顔もみえないし、気障にハガキを書くことができるといいます。多いのは仕事のこと、転職とか将来性、結婚の相性とか……。

(キャンブルなども占うのかやしませんときっぱり)。易

の内容はファッションにも、結婚の話にもゆかす)

占いがブームと言われているですが、また社会的地位は確立していませんね。とくに現代の知性派には横目でみられています。が、私は将来、占いが新しい知性として認められるときがくると思っています。

(神秘的なふん囲気。そこで個人的なことに話を向けると) プライベートなことは言わないことにしています。仕事には関係ないですから。トシ・ネコ年にしておいて下さい。(いま一つしつこく、女の幸せとは、とせまると) 最近幸せって考えたことないんです。

はお遊びになっちゃあいけないんです。易をたてるのはむずかしいことじゃない。もてあそびさえしなければ、だれにでもできます。『象(しょう)』として出たものをどう読みとるか、そこが修業です。

(細身の体を黒いツーピースに包み、スカートとイヤリングで若々しく装っている。が、話

▼メモ▲ CBCラジオ「はつくんジョッキー」(月一金曜)の中で連日「古い玉手箱」というコーナーを持ち、ハガキ相談に答えている。CBCの近くに事務所があり、一件五千円。年齢、出身、家族などはノーコメント。